



授業参観日・夏休み作品展終わる

5月7日以来4ヶ月ぶりとなる授業参観日が、コロナ禍がいまだ終息しない中、保護者の皆様のご協力により無事終わりました。

本校は6月に体育大会、そして7月には個人懇談会を実施し、夏季休業日を迎えたため久しぶりの参観日となりました。

実施にあたっては、密をできる限り避けるため、参観いただける日を2学年ずつ3日間に分けて、地区別に分散しての参観となりました。本来でしたら、お子様の様子や教室での活動をもっと間近で、できるだけ多くの皆様にご覧いただきたいところでしたが、このような参観の形でも開催できたことをまずは嬉しく思っています。

今回もこれまで同様に廊下から参観いただきましたが、保護者の皆様には場所を譲り合いながら静かに参観いただきましたことに、感謝申し上げます。それぞれ1時間だけではありましたが、学校での様子を見ていただけたのではないのでしょうか。「withコロナ」を意識してか、お子様の様子を見ようと足を運んでくださった家庭も多く見られ、少しずつ元の姿にもどりつつあることを感じました。

また同時に開催していました「夏休み作品展」も、コロナ前は多目的室や特別教室などを使ってご覧いただきやすいように作品を集中して展示していましたが、こちらも人が集まりすぎないように、各教室前の廊下や掲示板等を使っての発表展示となりました。

一つ一つの作品を見ると、工夫を凝らした工作や、毎日の継続観察が必要な自由研究、夏休みでないとできないような大がかりな調べ学習や制作等も多数あり、夏休み中の各家庭での学びが感じられました。



「清掃グループ」の清掃支援で… より深いつながりに

昨年度から、「学校運営協議会委員と職員との交流会」での意見により計画されていた笹ポーター「清掃グループ」の皆様による清掃支援が、9月5日から2週間にわたって行われました。清掃時間に「子どもたちは懸命に掃除をしているが、正しく掃除道具を使えない」や「各学級の担当掃除場所がいくつもあり、担任がすべての場所で清掃指導することが難しい」などの交流会での声により、毎学期当初に清掃支援を行おうと計画していました。しかし、これまで緊急事態宣言等により十分に実施することができませんでした。

委員の皆さんが子どもたちの清掃の様子を見ると、「階段を下から上へと掃いている」や「ほうきで掃くのではなく、掃除機のように押している」、「ぞうきんを丸く団子のようにしぼっている」「水拭きとから拭きの区別がつかず、しぼりきらずボトボトのぞうきんでぬらしてふいている」などの感想がありました。

そこで笹ポーター「清掃グループ」を中心に、コミュニティ笹原協議会高年者部(老人会)の皆様にもご協力いただき、毎日10人程の皆さんが、約20分間一緒に掃除をしながら、掃除の仕方を教えてくださいました。

掃除の担当場所が増える中学年(3・4年生)の場所を中心に支援いただくと、2年生の時に「九九学習」を聞いていただいていた子どもたちは、笹ポーターの皆さんに親しみを持って「私のこと覚えていますか」や「今年は妹がいるのでよろしくお願いします」「また九九が始まったら、会いに行きます」などと大人さながらの挨拶をしている児童もみられました。

最終日には、子どもたちが掃除をしやすいように、ほうきの先や掃除道具を一つ一つきれいにしてくださいました。たくさんの皆さんに支えられていることをあらためて感じました。地域のみなさんと子どもたちとの、学年を超えたつながり(絆)が、確実に育まれていることに感謝の気持ちでいっぱいです。

